

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	Cedars Sinai Medical Center, Cedars Sinai Heart Institute, Cardiac Imaging: Life in Los Angeles
作成者（著者）	中西, 理子
公開者	東邦大学医学会
発行日	2012.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 59(1). p.40 41.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	世界の研究室から
著者版フラグ	publisher
JaLCDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.59.40
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD00738687

Cedars-Sinai Medical Center, Cedars-Sinai Heart Institute, Cardiac Imaging

Life in Los Angeles

中西 理子

東邦大学医学部内科学講座 (大森) 循環器内科



2010年8月より米国カリフォルニア州ロサンゼルスにある Cedars-Sinai Medical Center で clinical research fellow として臨床研究を行っています。

この病院の循環器内科は元々スワンガンツカテーテルを開発した Drs Swan and Ganz や、フォレスター分類の Dr Forrester が所属しており循環器分野の臨床研究で有名な施設です。私が現在所属する Cardiac Imaging はその中の cardiac CT, nuclear medicine, MRI など扱うイメージング部門です。Director の Dr Daniel S. Berman は長年心臓核医学の分野を牽引してきた世界的に有名な cardiologist であり multimodality を用いた心臓イメージングという分野を早期に確立した人です。現在の主たる仕事は日々行われる cardiac CT, MRI の撮影と reading, そしてそれらを用いた研究です。でき上がった画像を pre-reading シタ方から Dr Berman とともに final reading を行います。1 症例ずつ臨床経過を踏まえ reading を行うため final reading は時間を要しますが、この時間に研究のアイデアが生まれ、また症例を通じて最近の知見や paper の解釈など様々なディスカッションをボスと行えるため非常に有意義な時間となっています。臨床の仕事以外の時間は個々の研究を行っています。特にテーマなど与えられるわけではないため自分でアイデアを出し OK が出たら研究を開始するのですが、留学を開始した直後に上司に「ボスは research と paper の ratio が 1 でないとダメだからね」と釘を刺されていたので、[つまり paper にならないような中途半端な研究はするな (paper として発表に値する臨床的意義のある研究をしろ)], アイデアを出す時はしっかりしたものを出すように注意しています。実際行っている (行った) 研究内容は、心臓外脂肪の冠動脈・動脈硬化進展への影響, myocardial bridging, CT を用いた plaque の研究とその予後などで、思考錯誤しながらも何とか日々研究生活を続けています。当施設には各国から来た fellow が



2010年12月. Cardiac Imaging の faculty と fellow 達で行われた年末の party での記念写真.



2011年1月. 毎年 Cedars-Sinai Medical Center, Cardiac Imaging が主催する学会後の party でのボスと fellow 達. 今はこのうち 2 人の fellow がすでに帰国し、夏から新しい 2 人の fellow が加わり 6 人の fellow で日々研究を行っている.

同じく研究を行っていますが、みんな非常に優秀で実力と実績がありいろいろ刺激をうけています。また常に的確な指導してくれる MD, PhD 達がたくさんおり、読影の仕方からリサーチの組み方、そして paper の書き方などたくさんのお話を教えてもらい経験させてもらっています。

生活面においては、LA は日本人が住むにはいい環境だと思います。日本人も多く日系スーパーやレストランなどもあり大抵のものは手に入るのであまり不自由はしません。また LA は移民も多いので言葉が多少不自由でもみんな割と我慢強く聞いてくれ、何とか生活できています。

正直に言えば留学生活は楽しいことばかりでなくプレッ

シャーもあり仕事もそれなりにハードですが、少しずつ環境にも慣れてきたので留学 2 年目はもう少しペースアップして頑張っていこうと思っています。

今回の留学に際しいろいろお世話になりました山崎教授、池田教授、並木教授、佐地教授、諸井先生、我妻准教授、山科准教授、藤本先生、戸田先生、原先生、また今回論文でお世話になりました病理学の石井教授、石川准教授、秘書の奥脇さん、河合さん、そして快く送り出してくれた東邦大学医療センター大森病院循環器内科の医局員の皆さんにこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。